
龍の血

鹽崎 裕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

龍の血

【Zマーク】

N1083A

【作者名】

鹽崎 裕

【あらすじ】

心臓が弱い妹（奈由）のために兄（晃）は龍の血を求め今旅に出る…。

プロローグ

「……も違つたか……」

俺は今旅に出てゐる……旅の中で俺はある物を手にしなければならぬ……。

その訳は、俺には奈由と書う妹がいる……奈由は小さな頃から心臓が弱く医者には、あと余命1年と宣告された……それでじいちゃんの話によると”龍の血”を飲めば奈由は助かると言われた。

俺はその”龍の血”を求めて旅に出た。

第一章・旅立ち

「晃よ…これを持っていけ…かなりすこいの旅に役立つものだ。」

「わかった!…ありがとうございます。じゃあ行ってくるね。奈由をよろしくお願ひします。」

そう言って、元気よく晃は家を出ていった。

「氣よつけでな…無事に帰つてこいよ。」

晃は早速先程もらった物を見た。

「なんだこれ…コン…バス!?」

おじいさんがくれていたのはなんと、コンパスでした。

しかし普通のコンパスとは何かが違う…形も普通ではないし、あと妙な力が感じられます。

「何の役に立つのかな!?」

と、手に持つてそっぽやいていると…コンパスが急に光りました。

「うわあああああー!…！」

するとその光は空に向かっていきました。そして空に向かって行つた光は西の方向へ飛んでいきました。

「びっくりしたあ…コンパスが爆発したかと思つたよ…じいちゃんも渡すときに何に使う物か言つてほしかったよ…まあ西の方向に向かっていつたんだから西に行けつてことか…」

そう言つて晃は西に向かつて行くことにした。

しばらく西に向かつて歩いていると広い森を見付けた。

「まさかここにあるわけないよな…位置を確かめてみるか…」

そう言つて晃はコンパスをだした。しかしコンパスは動かなかつた

…。

「…あれ!?動かないぞ…この前は動いたのにどうしてだ??」

晃はコンパスを隈無くイジつたらへんなボタンを押してしまつた!すると光が空に向かつていきました。

「EJECTのボタンか～前は偶然押してしまったんだな…あと…光
は…」

光の方向は森の方へ向かっていった。

「やつぱりか…けど行くつきやねえか！…」

そうひきを晃は森に向かい走つていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1083a/>

龍の血

2010年10月28日04時14分発行